

3-I) 景観

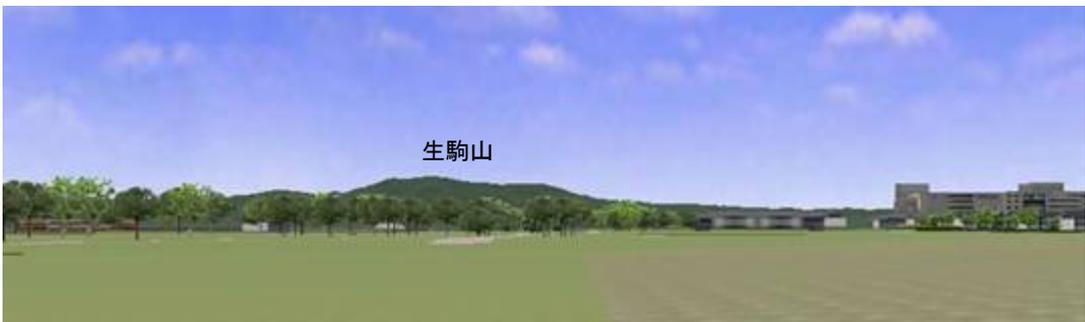
奈良県全体の景観としては、大和平野とその背景として「青垣山」と呼ばれる緩やかな山地・丘陵が取り囲んでいることが大きな特徴となっている。これに加え、大和平野に分布する大小1万を超えるため池や、緑と対になって存在する多くの社寺も奈良県の景観的特性と言える。

平城宮跡周辺においても、東方向には若草山、春日山、高円山が、西方向には生駒山といった緩やかな山々が臨まれ、北方向には垂仁天皇皇后日葉酢媛命狭木之間陵や宇和奈辺・小奈辺陵墓参考地といった古墳群と佐紀池、水上池などのため池が多数分布している。このことから、周辺は都市化が進展しているにもかかわらず、緑の多い歴史的な景観が広がっている。

しかし一方で、宮跡南東側には、ボーリング場や国道42号の高架道路が見え、景観を阻害しているといえる。



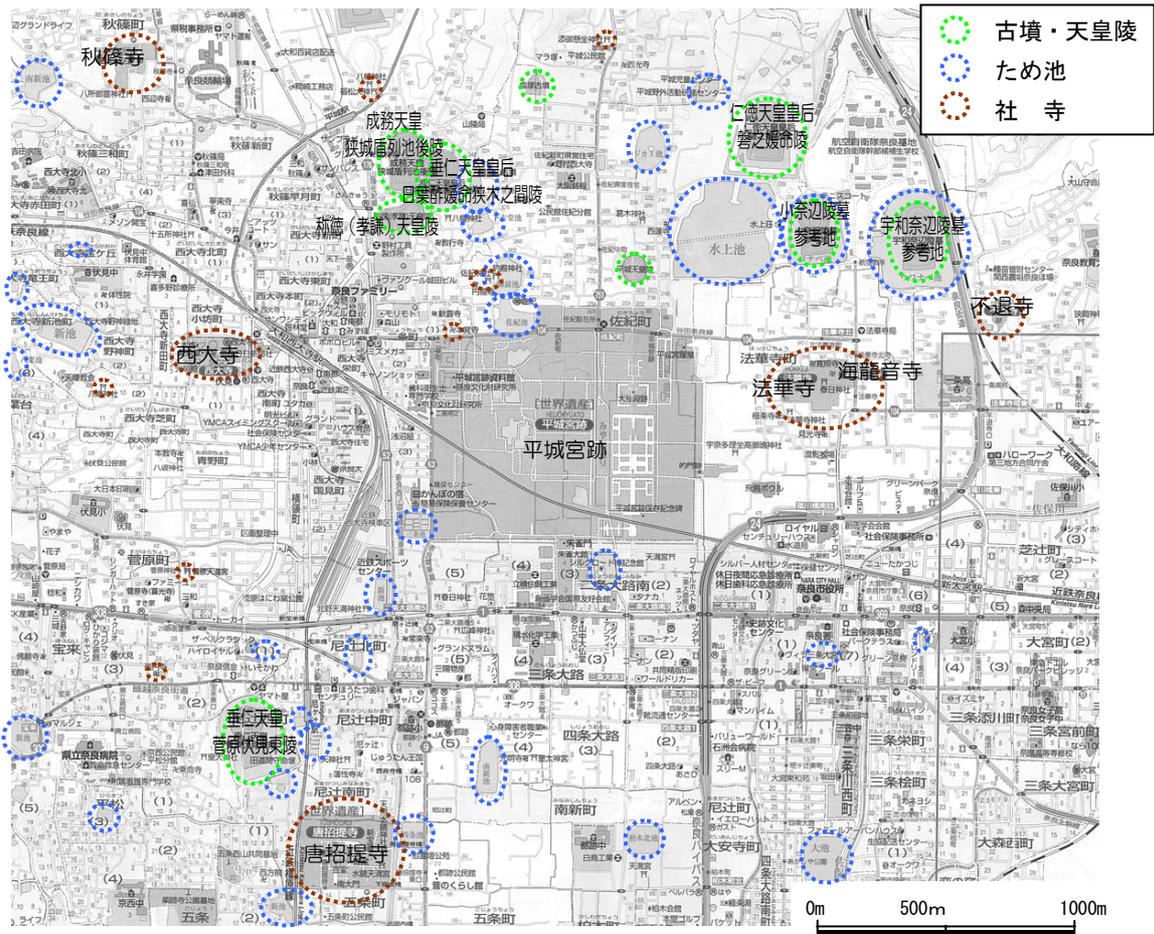
<大極殿中央から東方向>



<大極殿中央から西方向>

図Ⅲ-11 平城宮跡からの景観

資料：平城遷都1300年記念事業協会



図Ⅲ-12 平城宮跡周辺の景観構成要素（主なもの）

4) 宮跡内施設整備状況

宮跡内の施設としては、展示施設として平城宮跡資料館（以下、資料館）と遺構展示館が、便益施設として駐車場、売店、トイレ、あずまやが存在している。

資料館は、発掘で出土したさまざまな遺物や建物の復原模型を展示しながら、平城宮について説明している。また、遺構展示館は、発掘で見つかった遺構をそのまま見ることができるほか、第一次大極殿や内裏の復原模型を展示している。また、宮跡外には、調査研究施設として奈良文化財研究所が平城宮跡の西側に隣接している。

駐車場は主に4カ所で、うち資料館北、遺構展示館東、東院庭園の3カ所でバスも乗り入れることができる。乗用車換算で計420台の駐車が可能である。

売店は、遺構展示館に隣接して1軒があり、(社)平城宮跡保存協力会に委託している。

トイレは独立したトイレが資料館北側、遺構展示館東側、宮内省南側、宇奈多理神社西側の4カ所と、資料館内に1カ所、また宮跡南側の奈良市によって整備されている朱雀大路緑地に1カ所の計6カ所で、うち、身障者用トイレが6穴ある。

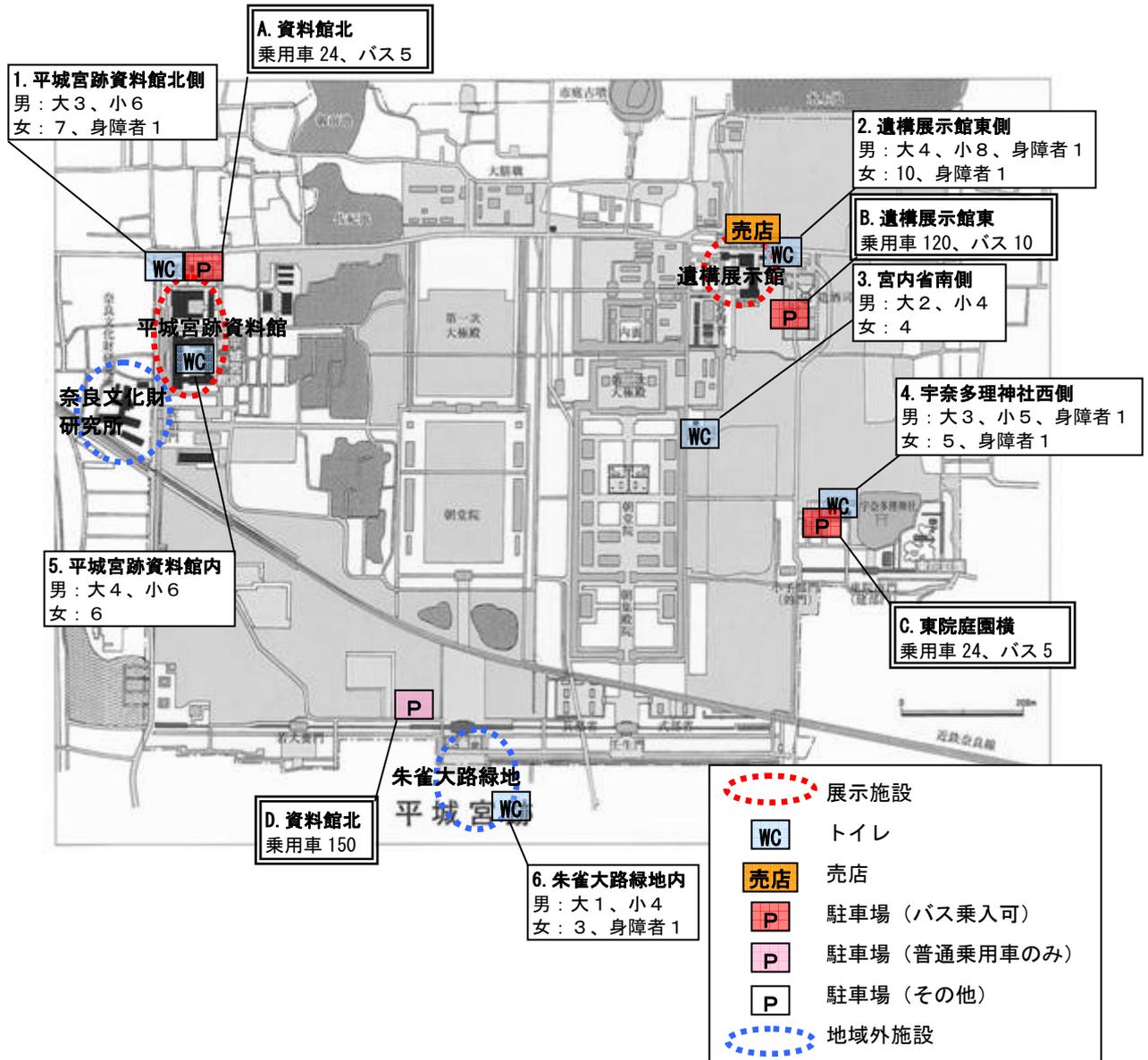
表Ⅲ-4 駐車場と駐車可能台数

場所	乗用車	バス	乗用車換算
A. 資料館北	24	5	50
B. 遺構展示館東	120	10	170
C. 東院庭園横	24	5	50
D. 朱雀門西	150		150
合計	318	20	420

表Ⅲ-5 トイレの箇所数

	男性			女性		備考
	大	小	身	大	身	
1. 平城宮跡資料館北側	3	6		7	1	公共下水
2. 遺構展示館東側	4	8	1	10	1	公共下水
3. 宮内省南側	2	4		4		浄化槽
4. 宇奈多理神社西側	3	5	1	5	1	浄化槽
5. 平城宮跡資料館内	4	6		6		公共下水
6. 朱雀大路緑地内	1	4		3	1	公共下水
合計	17	33	2	35	4	

※身：身障者用



図Ⅲ-13 展示施設および便益施設配置図

5) 管理状況

5-7) 管理体制

平城宮跡全体の管理は独立行政法人奈良文化財研究所（2001 年奈良国立文化財研究所を再編）があたっており、宮跡の発掘・研究、維持管理および計画を執り行っている。

奈良文化財研究所は、宮跡関連部門としては庶務部、平城宮跡発掘調査部の2つの部と建造物研究室、歴史研究室の2室からなっており、庶務部が維持管理、平城宮跡発掘調査部及び研究室、歴史研究室の2室が調査研究を担当している。また、緑地等の維持管理を中心とする現業部門は、庶務部庶務課の業務であるが、維持管理作業自体には作業班があたっている。作業班の構成は整備班長のもと、整備班、工作班、発掘作業班に分かれている。

管理内容としては、資料館及び遺構展示館の受付や利用案内をはじめとした①展示施設等の管理、②宮跡内の植栽管理、ゴミ処理およびトイレ等の清掃・除草などの③一般的な清掃活動、④日常の点検巡視および花火等がみられる夏場夜間の安全管理が挙げられる。また、発掘調査の現地説明会等のイベントの運営を行っている。

5-1) 平城宮跡ボランティア

奈良文化財研究所では、解説ボランティアのほか、NPO平城宮跡サポートネットワークと連携協力した様々な講演会やイベントを企画している。

平城宮跡解説ボランティア事業は、来訪者等に対して資料館、遺構展示館、復原建物等の案内・解説を行うもので、平成11年10月から開始しており、平成16年度においては、延べ7.3万人あまりに対して解説を行った。

平成17年10月1日現在のボランティア登録人数は148名で、1日7～10名が休館日を除く毎日、平城宮跡資料館、遺構展示館、東院庭園、朱雀門、第一次大極殿復原工事一般公開施設の公開施設を拠点に案内及び解説を行っている。

20人以上の団体の場合は、日時、見学場所、団体名、員数などを規定用紙を用いて、事前に申込みこととなっている。

世界文化遺産／特別史跡 平城宮跡散策マップ

公開施設 平城宮跡資料館・遺構展示館・東院庭園・朱雀門
第一次大極殿復原工事 一般公開施設 いずれも **入場無料**

開館 9:00～16:30 (入館は16:00まで)
休館 月曜日(月曜が休日のときは火曜)、年末年始
お問合せ 電話 (0742)30-6753・6756
<http://www.nabunken.jp>



アクセス-1 公共交通機関をご利用の皆様へ

- ◆京都・大阪方面からは近鉄西大寺駅下車が便利です。
- 平城宮跡資料館 近鉄西大寺駅北口 下車後、徒歩10分
- 遺構展示館 近鉄西大寺駅北口 下車後、徒歩20分
- 朱雀門 近鉄西大寺駅南口 下車後、徒歩20分
- ◆JR奈良駅・近鉄奈良駅方面からは、近鉄電車をご利用のほか、奈良交通バスもあります。(約30分)
【バス】平城宮跡資料館(二条町)「徒歩3分」、遺構展示館「平城宮跡」下車すぐ、朱雀門「二条大路南4丁目」下車すぐ
- バスの時間・料金を詳しくことは奈良交通テレフォンセンターへ
電話 (0742) 20-2100 <http://www.naratsoku.co.jp>

アクセス-2 お車をご利用の皆様へ

- ◆宮跡周辺の交通状況にご注意ください。
- また見学の際は、公開施設専用の駐車場をご利用ください。

京都方面	京奈和道「木津IC」▶国道24号を南へ「二条大路南1」を右折、新奈道路を西へ、「二条大路南5」を北進
大阪方面	第二奈道路「宝来IC」▶新奈道路を西へ、「二条大路南5」を北進
橿原方面	西名新道「郡山IC」▶国道24号を北へ「二条大路南1」を左折、新奈道路を西へ、「二条大路南5」を北進
三宮方面	国道163号を西へ「上原4」を左折、国道24号を南へ「二条大路南1」を右折、新奈道路を西へ、「二条大路南5」を北進、②名新道「天理IC」▶国道169号を北へ、「原竹原」を左折、新奈道路を西へ、「二条大路南5」を北進

見学のモデルコース

Aコース (所要時間 約1時間30分)	資料館→第一次大極殿→第二次大極殿→内裏→遺構展示館
Bコース (所要時間 約1時間30分)	資料館→第一次大極殿→朱雀門
Cコース (所要時間 約30分)	資料館→遺構展示館→東院庭園→朱雀門→資料館

- ◆所要時間は、二条市内の一般的な目安です。
- ◆自由に散歩できますが車の通り以外の横断は禁止です。また自動車道や排水路に気をつけてください。

ボランティアガイドのご案内

- ◆平城宮跡資料館を中心に遺構展示館、東院庭園、朱雀門のほか、大極殿復原工事現場公開施設で無料の高内解説をおこなっています。案内所が必要の方は、お電話に声をかけください。
- ◆団体のご案内は、日時、見学場所、団体名、員数など事前に下記へお申込みください。

申込先 電話: (0742) 30-6753・6756
Eメール: jmu@nabunken.go.jp
FAX: (0742) 30-6760

※奈良の観光に関するご相談は
(社)奈良興観光連盟 電話 (0742)23-8288
奈良市観光センター 電話 (0742)22-3900

©2006.3月発行

図Ⅲ-14 平城宮跡散策マップ

図Ⅲ-15 ボランティア活動の様子

資料：平城宮跡解説ボランティアHP

Ⅲ-18

6) 関連計画

6-7) やまと21世紀ビジョン（奈良県）

「やまと21世紀ビジョン」は30年後の奈良の道しるべとして2005年に策定された。計画内には「世界遺産等から日本の文化を発信」として、「平城遷都1300年記念事業を契機に歴史文化首都「なら」の魅力づくりを進めます」と掲げている。

＜やまと21世紀ビジョン＞

（基本目標）
奈良の三つの個性である、「歴史の“奈良”」、「住まいの“奈良”」、「共生の“奈良”」を生かし、住民、企業、行政などが一体となって取り組むことにより、「住む人々には安心でこころ豊かな暮らし」と「訪れる人々には感動と満足のとき」を実現し、基本目標である「世界に光る奈良県づくり」を目指す。

（目標年次）
子どもたちが親の世代にかわる、ほぼ30年後の2035年。

（特徴）
住民の皆様の視点から、6つの将来ビジョン（安心、元気、誇り、憩い、未来、地域経営）にわけて描き出すとともに、その実現のために47の数値目標を「なら未来目標」として設定。

図Ⅲ-16 「やまと21世紀ビジョン」概要

●歴史文化～新しい文化の古都“奈良”を創る～

世界遺産等から日本の文化を発信!

なら 未来目標	拠点エリアへの 来訪者数 20%増
------------	----------------------



平城遷都1300年記念事業を契機に歴史文化首都「なら」の魅力づくりを進めます。

- 平城宮跡の歴史文化ミュージアム化
- 「歴史大路」の創造
- 斑鳩、飛鳥・藤原京の魅力空間の創出
- 吉野・大峯等、古道を生かした魅力空間の創出 など

図Ⅲ-17 将来ビジョン「誇り」の「歴史文化」分野の1つ「新しい文化の古都“奈良”を創る」

資料：「やまと21世紀ビジョン」（2006年3月）奈良県

6-イ) 奈良県総合計画 後期実施計画

「後期実施計画」は平成7年3月に“世界に光る奈良県づくり”を基本目標に策定された「奈良県新総合計画」の目標実現のために、平成8年度から17年度までの5箇年の県の行政運営を推進するための指針となる。

リーディングプランとして「歴史文化首都「なら」の創生」を掲げ、後期5箇年の間に「平城遷都1300年記念事業などの推進」として、「平城遷都1300年記念事業として、歴史・文化国際交流ゾーンを形成し、平城遷都1300年に記念事業を行うことなどにより、日本文化の再生と新たな創生をめざし、歴史文化首都としてのシンボル性を創造する」としている。

また、分野別実施計画において、大極殿院の復原などオープンサイトミュージアムとして整備を促進するとして、平城宮跡の保存と活用が掲げられているほか、「平城遷都1300年」記念行事実施への展開や歴史・文化国際交流ゾーンの形成を掲げている。

6-ウ) 奈良県都市計画区域マスタープラン

「奈良県都市計画区域マスタープラン」は、「大和都市計画区域」と「吉野三町都市計画区域」が空間的、構造的及び機能的に密接な関係があるとして、一体的な都市計画マスタープランとして策定された。

「関西文化学術研究都市の建設に関する方針」において、平城宮跡地区は「歴史的風土・文化的遺産の保存及び平城宮跡・朱雀大路跡の保存整備を図りつつ、これらに配慮した文化財・考古学に関する文化学術研究施設の充実・強化を図る」とされている。

また、「歴史的、学術的に貴重な価値を有し、国民的文化遺産である『特別史跡平城宮跡』の中核施設である第一次大極殿院の整備を促進し、広く国民各層が古代都城文化を体験的に理解できる場の形成を図る」ことが示されている。

<奈良県都市計画区域マスタープラン>

(都市計画区域範囲)

- ・大和都市計画区域(10市、17町、1村) 104,976ha
- ・吉野三町都市計画区域(3町) 10,833ha

(都市づくりの基本方向)

「地域の発想による、地域住民のための、地域の魅力を創出する都市づくり」

(都市計画区域全体の将来像)

- ① 県土の都市活動の中心となる2大拠点(奈良、橿原)と個性豊かな主要生活拠点の形成
- ② 拠点間の交流や産業活動を支える都市軸(ネットワーク)の形成
- ③ 奈良らしい歴史文化をつなぐ歴史軸(奈良-橿原-明日香-室生-吉野、奈良-斑鳩)の形成

(目標年次)

おおむね20年後の都市の姿を展望しつつ平成22年(2010年)

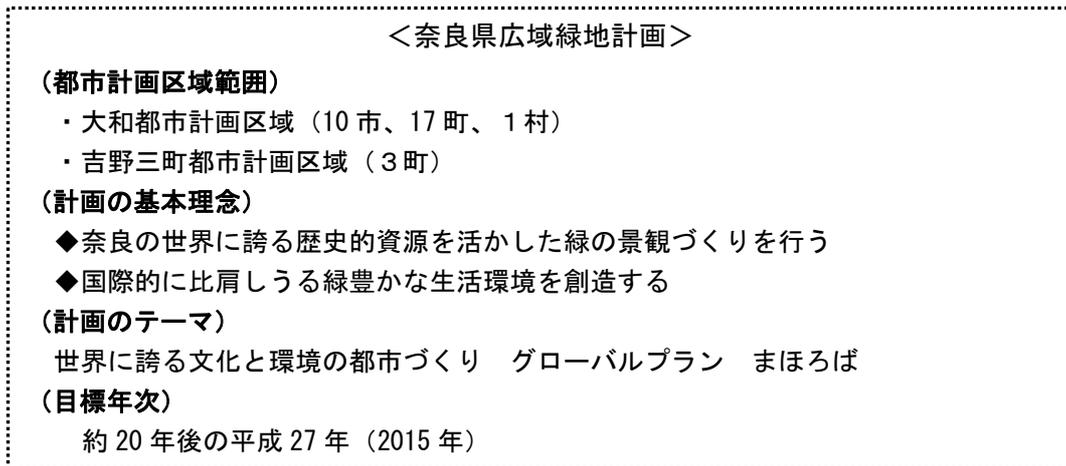
図Ⅲ-18 「奈良県都市計画マスタープラン」概要

資料：「奈良県都市計画区域マスタープラン」(平成16年3月)奈良県

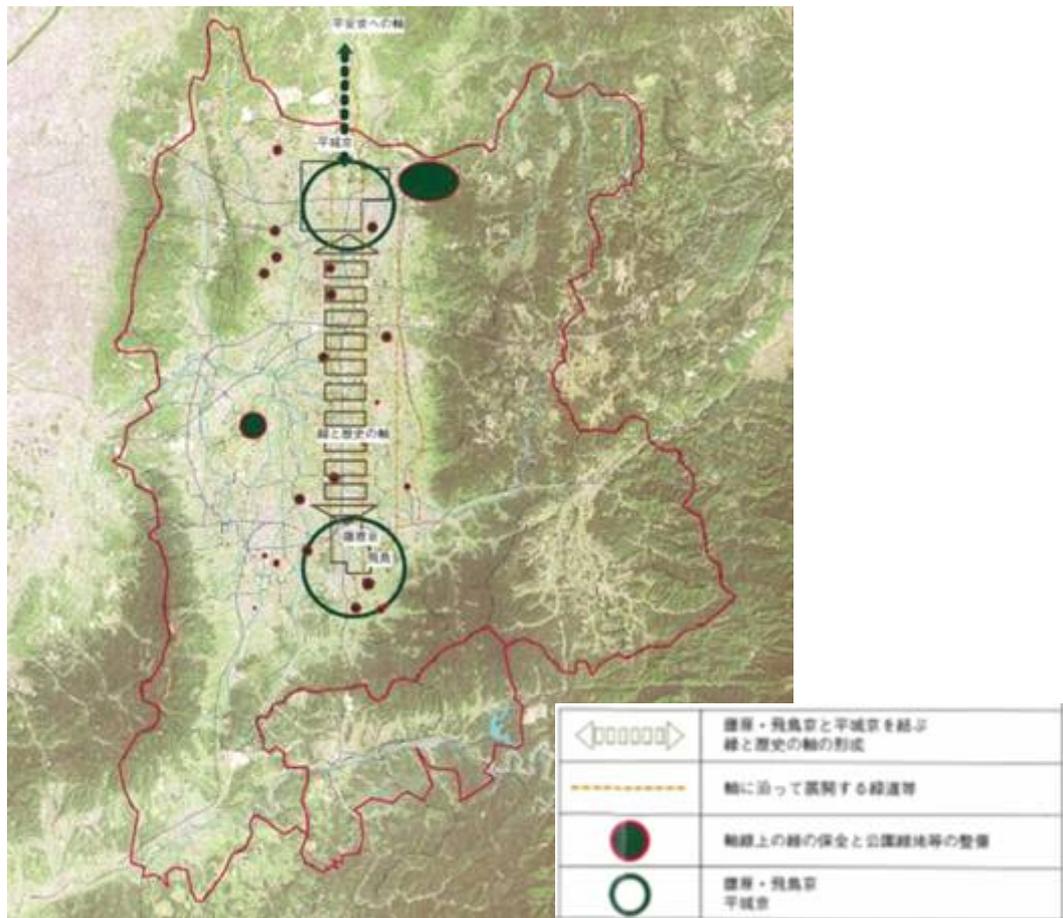
6-I) 奈良県広域緑地計画

「奈良県広域緑地計画」は、奈良県の都市計画区域を中心とする区域について自然・都市・県民の良好な関係の回復と創出を図ることを目的に、緑の総合的な配置指針として策定された。

重点施策の1つとして「奈良の新たなシンボルとなる緑と歴史の軸プラン」を掲げ、具体的な事業として、飛鳥・藤原宮跡・大和三山、平城宮跡の保全と、これらを南北に結ぶ歴史軸の周辺に存在する史跡等の文化財周辺の環境整備及びこれら周辺の公園緑地等を整備及びこれら周辺の公園緑地等を整備し、歴史・文化的環境を一体的に整備する、としている。



図Ⅲ-19 「奈良県広域緑地計画」概要



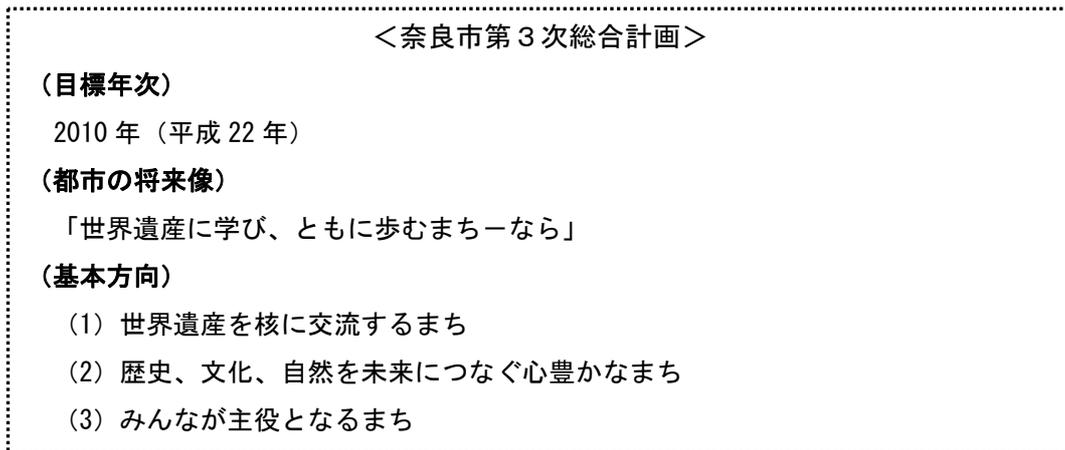
図Ⅲ-20 重点施策「緑と歴史の軸プラン」

資料：「奈良県広域緑地計画（平成10年3月）」奈良県

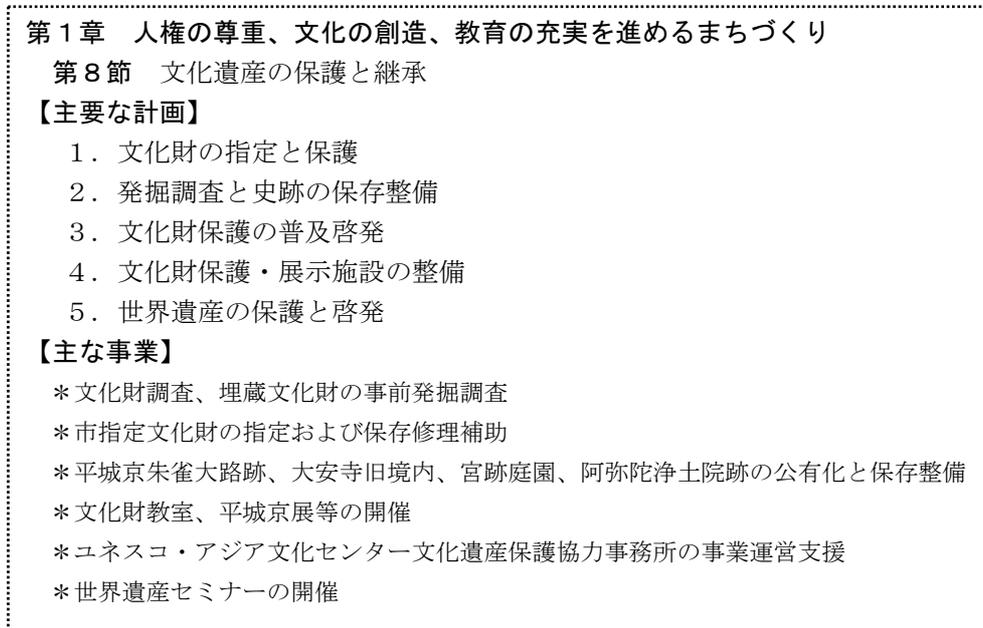
6-オ) 奈良市第3次総合計画

奈良市では平成13年2月に「奈良市第3次総合計画」を策定し、奈良市がめざすべき都市の将来像を「世界遺産に学び、ともに歩むまちーなら」とした。

このなかで、「発掘調査と史跡の保存整備」として「平城宮第一次大極殿院の復原など平城遺跡博物館構想の早期実現を国へ要望するとともに、朱雀大路、大安寺旧境内などの重要史跡の公有化保存を着実に進め、史跡を活用し市民がふれあう場としての保存事業を推進する」等を掲げている。



図Ⅲ-21 奈良市第3次総合計画の概要



図Ⅲ-22 「第1章 人権の尊重、文化の創造、教育の充実を進めるまちづくり」

資料：「奈良市第3次総合計画(平成12年12月)」奈良市

6-カ) 奈良市都市計画マスタープラン

奈良市都市計画マスタープランは、市のまちづくりの基本理念である「世界遺産をはじめとする歴史的文化遺産をまちづくりの核とし、人と自然と文化を大切にすまちづくり」と、その都市の将来像である「世界遺産に学び、ともに歩むまちーなら」の実現を、都市計画の視点から図っていくことを目標とし、日本の「文化首都」として、また関西文化学術研究都市の母都市として、都市機能と拠点性を高めていくことにより、将来発展を図ることとしている。

平城宮跡周辺は、土地利用の基本方針の歴史地域、中部ゾーン「平城京大シンボル軸」として位置づけられており、平城京の中核に位置し世界に誇るべき歴史的・自然的環境区域、平城宮跡、朱雀大路跡の歴史・史跡公園としての整備などが掲げられている。

<奈良市都市計画マスタープラン>

(都市計画のトータルコンセプト)

新平城京の創造

ー保存と開発の調和を基本に全市にわたって、国際文化観光都市・奈良にふさわしいまちづくりを展開するー

(新平城京をつくるための3つのサブコンセプト)

- ◇園林都市（歴史都市らしい水と緑の都市空間をつくる）
- ◇歴史文化創造都市（新しい都市活動、産業基盤をつくる）
- ◇生活うるおい都市（豊かな住と余暇空間をつくる）

図Ⅲ-23 奈良市都市計画マスタープランの概要

<地域別構想 地域Ⅳ：平城京大シンボル軸>

(キャッチフレーズ)

都市奈良の中心・平城京大シンボルゾーン

(地域の将来像)

奈良のまちづくりのアイデンティティの中心として、古代都市平城京の壮大な空間を後世に伝えるため、世界遺産に登録された平城宮跡の復原整備を図るとともに、国内外の人々の文化的な交流の拠点となる朱雀大路を軸とした歴史・文化緑地帯を形成する。

(地域づくりの目標と基本方針)

- ◇平城宮跡の復原整備による平城遺跡博物館づくり
- ◇朱雀大路の復原を軸としたまちづくり
- ◇自然と歴史がいったいとなった景観と環境を守り育てる
- ◇歴史的風土にふさわしい快適な都市基盤づくり
- ◇河川の水辺環境を守り育てる



図Ⅲ-24 地域別構想 地域Ⅳ

資料：「奈良市都市計画マスタープラン（平成14年12月）」奈良市

6-キ) 「平城京・歴史大路」検討のまとめ

奈良市では、「平城京・歴史大路」について検討を行っており、平城京のシンボルである平城宮跡および朱雀大路の整備活用を通して、悠久の歴史の中で吸収、集積した文化を世界に向けて積極的に発信し、全国や世界の人々が集い、交流する拠点機能を形成するとし、これを奈良の新たな都市軸として、21世紀の地球時代にふさわしい「新・平城京」の創造を目指す、としている。

<「平城京・歴史大路」整備の方向性>

◇特別史跡「平城宮跡」の歴史文化ミュージアムへの発展

朱雀門、東院庭園に続き、第一次大極殿院の復原整備が進められている特別史跡「平城宮跡」を日本を代表する歴史文化ミュージアムに発展させる。

◇朱雀大路の歴史モール化

歴史文化をテーマに交流する舞台として、歴史体感や歴史・文化財系の学術研究、芸術文化創造の世界センターとなる拠点機能を集積する。整備イメージとしては「スミソニアン歴史博物館群の機能」を形成するとともに、それにふさわしい質の高い都市機能の整備を目指すものである。

(朱雀大路を中心としたエリアの超長期構想<事例>)

拠点機能の形成——歴史体感——朱雀大路の国営公園化、歴史博物館、
子ども歴史ミュージアム

学術研究——共同研究機構（歴史・文化財系）、奈良文化財研究所の充実・整備、リカレント・エデュケーションセンター、
関連国際機関・国機関等

芸術文化創造—東アジア芸術文化センター、芸術・建築系アートビレッジ

都市基盤の整備——都市的サービス機能——宿泊・コンベンション関係、観光・サービス産業関係

交通基盤——公共交通、郊外型・大規模駐車場、鉄道アクセス

図Ⅲ-25 「平城京・歴史大路」整備の方向性

資料：「平城京・歴史大路」検討まとめ（平成16年3月31日）（株）電通関西支社

(2) 新規調査

1) 植栽木調査

1-ア) 調査の概要

①宮跡内の植栽の状況

宮跡内の植生については既に「平城遷都 1300 年記念事業 宮跡の自然環境に関する調査報告」において、草本群落地の植物群落調査が行われているほか、みやと通り西側の昭和 56 年全国植樹祭記念植樹実施地における毎木調査が行われているが、宮跡内に相当数存在する植栽木の实態については十分に把握できていない状況にある。

植栽木の中には、花見の場として親しまれている桜並木や梅林もある一方、遺構保護のための高植えなどにより生育不良の樹木もみられ、宮跡内の樹木の現状を把握するための調査が必要と考えられる。

②調査の目的

公園計画内で、既存樹木の保全や活用を図るために宮跡内に植栽された樹木の分布状況を把握するために実施する。また、遺跡保護のための高植えの状況と植物の生育状況等を把握することで、今後の植栽計画、管理運営計画の一助とする。

③調査内容と時期

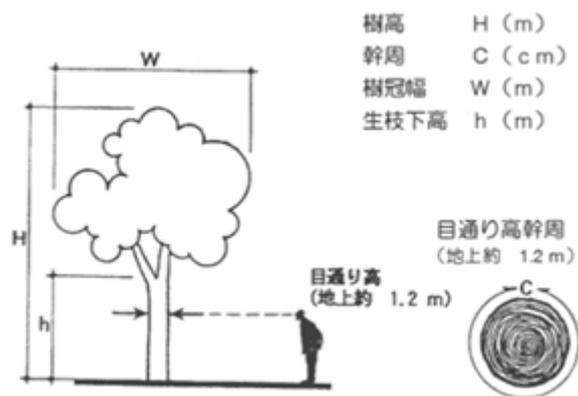
対象地区：特別史跡の指定区域約 130haのうち、宅地と社域、東院庭園を除外した宮跡の大半の部分を調査対象とする。

対象樹木：樹高が概ね 3 m 以上のもの（現場の状況に応じて、これ以下であっても対象とする）

調査項目：概略位置、樹種、樹高、胸高直径、枝張り。

枯死や生育の著しい不良など、特記すべき項目があればあわせて記載する。

調査時期：11 月下旬から 12 月中旬にかけて実施した。

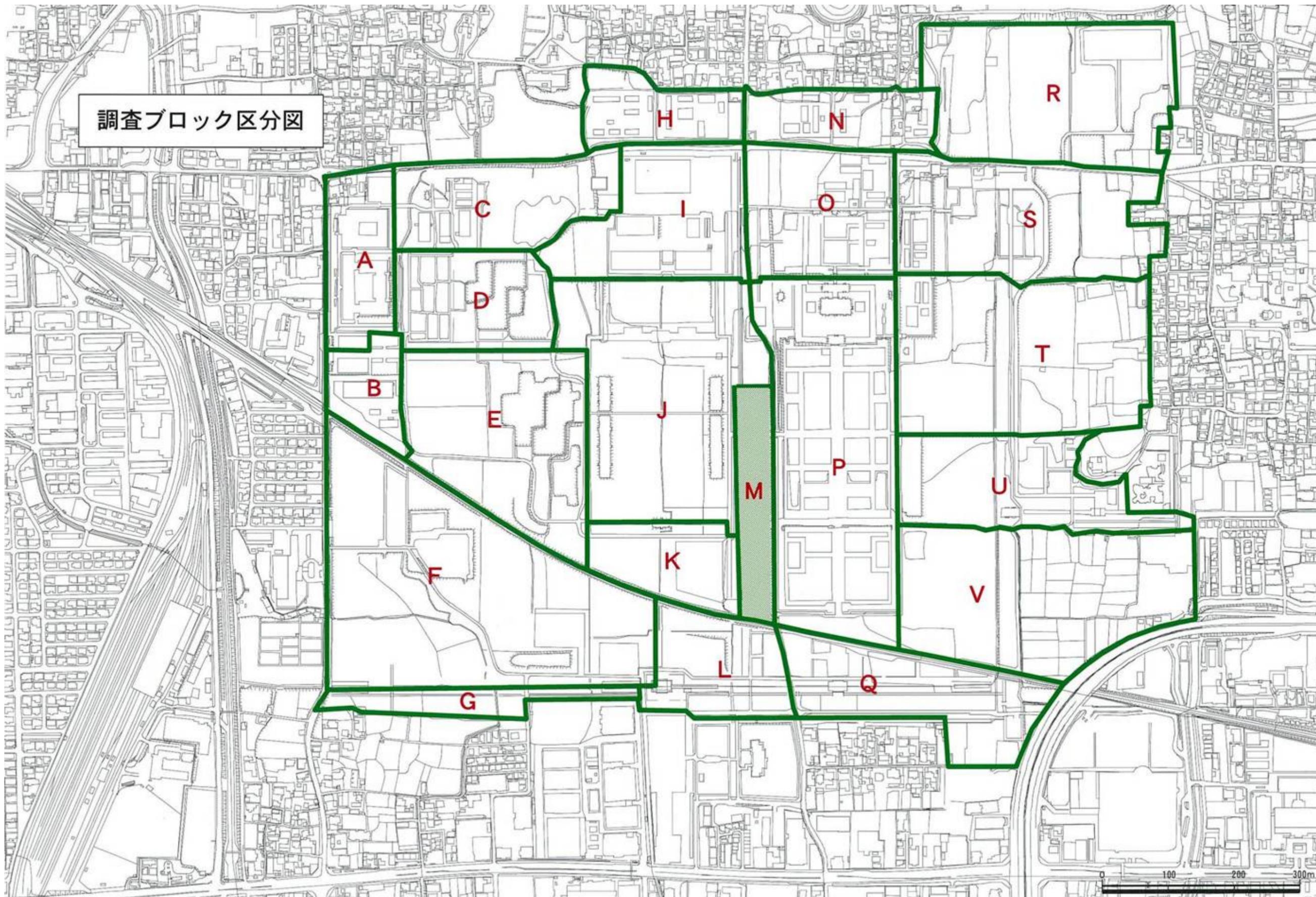


④現地調査

作業の便宜上、宮跡内を一定のまとまりのある地区に区分し、これを「調査区」として樹木のナンバリング等を行った。調査区は、次頁のとおり A～V までの 22 地区であるが、V 地区については、平城遷都 1300 年記念事業関連の毎木調査が行われているため除外した。

⑤集計、解析

V 地区のデータも入力し、宮跡全体としての集計、解析を行った。



図Ⅲ-26 調査ブロック区分図